資料　５

# 第１回四万十市産業振興計画検討チーム・ワーキンググループでの主な意見等

WG:R1.8.26 開催

## 農業分野

●新規就農者の確保
- 研修生が入らない年があり不安定
  ➜ 就農フェア等にも参加し、募集活動しているが解決策になっていない
- 雇用就農を希望する若者が増加している
  ➜ 就農フェアに行くと７割とか希望がある。受入できる組織体が必要

●関係機関の連携
- 米ナス振興では、県や市の担当者が異動により支援体制の繋がりが失われる

●ぶしゅかん産地化
- 流通させる、お金にするにはマニュアルに基づいた栽培管理による一定の品質確保が必要

●ブランド化
- 料理の作り方など動画でのＰＲが効果的では
  ➜ 印刷ＱＲで YouTube に飛ばす取組みしてみては

## 林業分野

●新規就業者の確保
- 林業大学校の卒業生と移住者の就業が増えている
- 移住施策が他市町村と比べ弱いと感じる
  ➜ 他では住宅の用意、水回り改善等の補助がある
- 研修に来た人の寝泊りする場所が無い
  ➜ 住むところがあればもっと人を呼びやすい

●人手不足
- 夏場の下刈り、冬から春の鹿ネット張りや植付け作業に人手が足りない
  ➜ ２～３人いれば一山の下刈りなどできる
- 農閑期に農家が林業従事するなど、産業間をリンクした人材バンク的なものがあれば良い
  ➜ 短期収入が得られ、移住者の生活安定、定住にも繋がるのでは

●四万十ヒノキのブランド化
- 単純に植えてできたものでなく、原木の作り方、生産方法の確立が必要
  ➜ 再造林の意向のない民有林を使った取組みなどできるのでは
- 四万十ヒノキの建物があればＰＲになるのでは
  ➜ 地元の人は安く使えるなどできないか

●事業周知
- 造林の 100%補助をまだ知らない人が多いので周知が必要

●市道、林道の拡幅
- 長伐期施業に向かうと木材が大型化し、機械も大型化するが、市道、林業が狭くて現場に入れない問題がでてきている

## 水産業分野

●水産資源の回復
- 高知大学との連携、稚魚の放流など色々な取組みはしているが資源回復まで至っていない
- その年々で鮎の漁獲量が安定しない
- スジアオノリ回復に向けた取組みをお願いしたい
- 資源回復には水質等が関係すると思うが、林業と絡ませて手立てするなど計画はないのか
- 四万十川が豊かで、漁師がいて、川とともに生きるまちがあって初めて観光でも人が呼べる。川をしっかり生かさないと何をしても衰退していく

●鮎のブランド化
- 天然鮎の価値を高めるには、天然を使ってくれる店舗を増やす必要がある

●人材不足
- 漁業と林業、漁業と農業など兼業できないか
  ➜ 獲れる時期時期があり難しい
- 地域、素材を売り込んでいける営業マンが必要

## 商工業分野

●にぎわい拠点づくり
- 賑わい商店がカフェを直営し、テナントが４店舗入る
- 街中で昼食するところがない問題もあったので、夜の屋台オープンまでの時間、カフェでランチをやり、それ以降の時間は軽食も検討している
  ➜ テナントは、基本的に夜の営業だが昼もやって欲しいとお願いしている

●事業継承
- 勢いのある事業者は良いが、西土佐地域では維持することが精いっぱいというのがほとんどなので今後は考慮してもらいたい

●リバーベキュープロジェクト
- バーベキューを切り口に、わざわざ四万十市に来てもらって、地元食材・地元産品を使用して楽しんでもらうプロジェクトで、まずは西土佐地域からスタートしてノウハウを蓄積しながら四万十市全体に波及させたい。道の駅を拠点に農林水産、商工、観光全分野の連携で実施したい。

## 観光分野

●おもてなし向上
- 魅力的な遊覧船の船頭、女将さんなど一人でも増やすことがリピーター確保、観光誘客になるのでは
  ➜ 遊覧船の利用低下の改善にも繋がるのでは
- 観光地として、タクシー運転手が自信を持って見所を語れるようにしないといけない
  ➜ タクシー運転手全体の底上げが必要